

アセスメント票

受付 NO. 1 氏名：佐藤 真（仮名） 対応職員 小林 実	アセスメント対応状況 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭訪問（ 4月 4日）（ 月 日）（ 月 日） <input type="checkbox"/> 外来（ 月 日）（ 月 日）（ 月 日） <input type="checkbox"/> 電話等（ 月 日）（ 月 日）（ 月 日）				
障 害 者 本 人 の 概 要	生活歴	<p>昭和33年、福岡県の北九州市で生まれる。地元の小学校、中学校を卒業後、福岡市にある県立高校に入学する。大学への進学は家が貧しかったため、私立はあきらめ、国立大学に進む。卒業後は父と共に工務店を経営し、建築作業員として働く。店の経営は順調であったが、昭和62年、本人が29歳の時に、父が糖尿病で倒れる。入院生活をしなければならず、工務店の仕事が自分にのしかかってきてしまう。毎日の忙しさに耐え切れず、家を飛び出し、東京の親類の家に身を寄せ、東京で働き始める。父は3ヶ月の入院後退院をしたが、右麻痺が残って杖歩行をしなければならないために仕事を続けることはできず、店をたたむこととなってしまう。その後付き添っていた母は父の糖尿病の管理ができず、父は再入院となってしまう。5ヶ月の治療の効果もなく、父は死亡し、母も父を追うように死亡してしまう。</p> <p>本人の東京での仕事はうまくいかず、上司と意見が合わないなどの理由で、どの仕事も1年程度しか続かない。親類とも些細なことでトラブルを起こし、千葉県の船橋市で生活保護を受けながらアパート暮らしをしていた。</p> <p>平成24年、突然意識が薄らぎ、自分で何とか救急車を呼んで救急医療センターに運ばれる。原因は糖尿病の悪化である。担当医師から両足の切断を告げられ、仕方なく承諾する。救急医療センターでの治療を終了し、海浜リハビリ病院、大石記念病院、北総東病院を経て、平成26年9月より障害者支援施設「みどりの丘」に入所している。</p>			
	障害者手帳	<input checked="" type="checkbox"/> 身障手帳（1種1級） <input type="checkbox"/> 療育手帳（ ） <input type="checkbox"/> 精神保健福祉手帳（ ） <input type="checkbox"/> 取得していない	年金	<input type="checkbox"/> 障害基礎年金 <input type="checkbox"/> 障害厚生年金 <input type="checkbox"/> 国民年金 <input type="checkbox"/> その他年金	
	生活保護の受給	<input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> なし			
	障害支援区分	<input type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/> 区分1 <input type="checkbox"/> 区分2 <input type="checkbox"/> 区分3 <input checked="" type="checkbox"/> 区分4 <input type="checkbox"/> 区分5 <input type="checkbox"/> 区分6			
	病歴・障害歴	年 月	事 項	年 月	事 項
	平成24年2月	糖尿病による両足切断			
医療機関利用状況〔現在の受診状況、受診科目、頻度、主治医、どの疾患での受診〕					
平成24年2月 救急医療センター（糖尿病による両足切断手術、糖尿病治療）					
平成24年4月 海浜リハビリ病院（リハビリ治療）					
平成24年9月 大石記念病院（同上）					
平成25年3月 北総東病院（同上）					
平成26年9月 障害者支援施設「みどりの丘」入所					
現在は糖尿病の状態は安定しており、投薬もされていない。					
医療保険 被保険者（本人・家族）					
<input type="checkbox"/> 国民健康保険 <input type="checkbox"/> 健康保険 記号 番号 生活保護					
障害者医療： <input type="checkbox"/> 更生医療 <input type="checkbox"/> 育成医療 その他（ ）					
現在使用している福祉用具： 車イス					
生活状況〔普通の1日の流れ〕 ※週間生活表が必要な場合は別紙に記入					
本人					
6時起床、8時朝食、12時昼食、18時夕食 22時就寝					
入浴はしていない（清拭は自分でおこなう）、余暇は読書やテレビ鑑賞をしている。					
介護者					
ほぼ自立しているが、介助は施設の職員が行っている。					

利用者の状況

1 生活基盤に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
経済環境	生活保護	あり	要	船橋市から生活保護を受けている。
住環境	施設生活	あり	要	一人でアパート生活をしたいという強い希望がある。車イスが対応できるアパートまたはフローリングが必要である。

2 健康に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
服薬管理	薬は飲んでいない	なし	不要	現在は定期的な薬を飲んでいないが、風邪薬などは自己管理が出来る。
食事管理	職員が提供	なし	不要	糖尿病など食事管理は自分で出来る。
病気へ留意	健康である	なし	不要	病気に関して知識が豊富である。
体力	体力はある	なし	不要	毎日筋力トレーニングを行っている。

3 日常生活に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
衣類着脱 (上衣) (ズボン等)	自分で行っている	なし	不要	
整容行為	自立	なし	不要	
食事行為	自立	なし	不要	
排泄行為 (排尿) (排便)	トイレを使って 自分で行う	洋式トイレを希望	要	車椅子から洋式トイレに移るための改築が必要である。
睡眠	自立	なし	不要	
入浴行為	行っていない	あり	要	現在は自分で体を拭いている。他の障害者と一緒に入浴することは好まない。
ベッドへ移乗 (床) (車椅子等)	自分で行っている	あり	要	施設の車イスを借用しているが、自分の車椅子が欲しい。
屋内移動	自立	なし	不要	車イスで自走している。
調理(後片付けを含む)	施設の調理職員が行っている	なし	要	希望はないが、食材が偏るなどの弊害が予想されるため、ヘルパーなどの支援が必要。
洗濯	自立	なし	不要	
掃除	自立	なし	要	車イスでの生活をしているため、高い箇所の掃除ができない。
整理・整頓	自立	なし	不要	段ボールなどをうまく活用して整理整頓をしているが、収納ケースがあればよい。
ベットメイキング	自立	なし	不要	自分で可能。

書類の整理	自立	なし	不要	
買物	一部介助	あり	要	車イスで、自分で出られる環境があれば可能である。
衣類の補修	実施していない	なし	不要	
育児	なし	なし	不要	

4 コミュニケーション・スキルに関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
意思表示の手段	自立	なし	不要	
意思伝達の程度	自立	なし	不要	
他者からの意思伝達の理解	自立	なし	不要	
情報伝達機器の使用	公衆電話等を使用している	あり	要	携帯電話は希望している。

5 社会生活技能に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
対人関係	あまり会話を好まない	なし	不要	
屋外移動 (近距離移動) (遠距離移動)	車イスで移動している。遠距離はタクシーを活用する。	あり	要	自力走行は可能であるが、段差がある場所では走行は困難である。公共交通機関を使っでの移動は可能である。
金銭管理	すべて自分で管理している	なし	要	通帳から金銭を引き出すことに支援が必要であり、カードがあると自分で行える。
危機管理	自立	なし	不要	

6 社会参加に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
レクリエーション等	行っていない	なし	不要	
趣味	読書	なし	不要	
旅行	行っていない	なし	不要	
当事者団体の活動	行っていない	なし	不要	
各種社会的活動	行っていない	なし	不要	

7 教育・就労に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
教育	学識や能力はかなり高い	なし	不要	
就労	行っていない	あり	要	働きたいと希望している。

8 家族支援に関する領域

項目	チェック内容			本人の能力と制限 気づいたこと 本人の環境と制限 気づいたこと
	実態	希望	援助の要 ・不要	
家族 ① 情報提供 ② 介護負担軽減 ③ 家族関係調整 ④ 社会参加	姉とはほとんど連絡をとっていない。	なし	要	九州にいる姉とは連絡をとっていないし、遠方なので、支援をお願いすることはできない。しかし、最終的な場面では家族（姉）をお願いするしかないと考えている。東京の親類とも気まずい雰囲気が出てしまったので、話づらい。

本人の要望・希望する暮らし

アパートでのんびりと暮らしたい。また、自分の暮らしが落ち着いたら日中活動ができる事業所または働くことができる会社などを探したい。

家族の要望・希望する暮らし

(連絡をとっていない)

関係職種からの情報

なし

[家屋の見取り図] 持ち家 その他

アパートを希望している。

担当者所見

平成26年9月からの施設入所生活は、佐藤様が行う仕事もなく退屈そうである。また、集団生活には我慢が付きものであるが、なかなかそれが出来ない状況である。アパートでの生活は佐藤様の現在の状況から考えると可能であり、充分一人暮らしができそうである。

しかし、車イスでの行動制限もあり、車イスで移動可能な範囲にいろいろ便利な環境が整っている必要がある。また、アパート暮らしの準備も進めなければならない。それには障害者の生活を理解してくれる不動産屋さんとオーナーを探すことが最重要課題である。